

どんな職業か

パソコンとDTP（Desk Top Publishing）ソフトを使用し、デザイナーあるいは編集者の指示に基づいて、印刷の原稿となるデータを作成するのが、DTPオペレーターである。

使用するパソコンの多くはMacintosh、ソフトウェアはアドビ社の「Photoshop」「Illustrator」「InDesign」と、クオーク社の「QuarkXPress」が大半である。

作業は、大きく2種類に分かれる。

第1は、従来でいえば製版・レタッチと呼ばれた作業で、クライアントが作成したデータを印刷用データとして仕上げる作業である。これには、クライアントが出来なかった部分の文字修正、アタリで入稿した画像を印刷用の高品質画像に差し替える作業などがある。

こうして印刷用に仕上げたデータは、印刷用フィルムあるいは刷版という形に出力され、後工程に回る。

第2は、従来でいえば写植・組版という作業である。組版とは、一定のルールに基づき、文字を配置していく作業で、ある程度のレベルまでは使用するソフトが行ってくれる。しかし、伝統ある出版社では個別のルールがあり、それに適合するよう、ソフトの設定をカスタマイズする必要もある。

組版したデータに、別途作成した図版や写真を配置すれば、印刷用のデータができあがる。

現在のDTP業界は、MacintoshのOSが一掃されたのに伴い、最新の環境と1～2世代古い環境が混在する過渡的な状況である。

実際のオペレーションでは、画面を見ながら対話的に作業を行い、画面上の結果が、ほぼ印刷物になり（WYSIWYG *What You See Is What You Get）直感的な操作ができるため、特にコンピュータを熟知している必要はない。

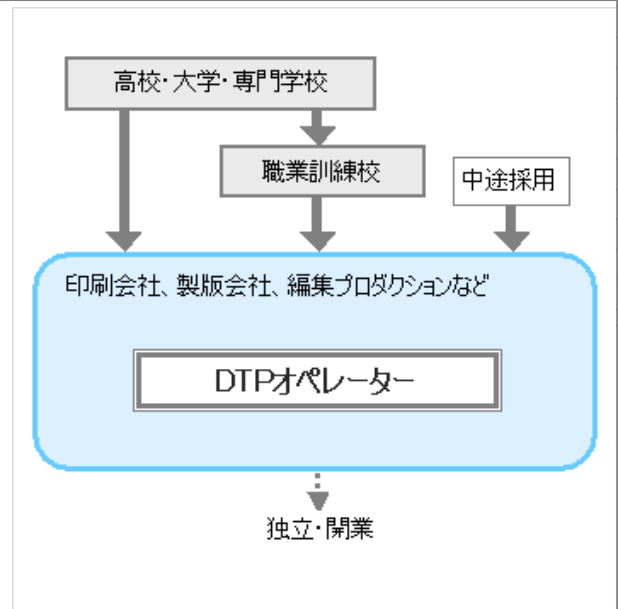
就くには

DTPオペレーターに就くには、特に資格は必要とされない。新卒の場合は、入社後に3カ月～1年程度、実際の作業を学ぶことになる。

専門学校などでソフトウェアの操作方法を習得している場合は、実際の作業の流れ、ルールを覚えるだけでよいが、学校で教わった方法に固執せず、現場の方法を理解することが重要である。

中途採用の場合は、即戦力を要求される。

この仕事には、指示書の的確な理解、修正内容の正確な把握が必要である。疑問点の確認を行う慎重さが求められる。また、ものを作ることが好きな人が向いている。



労働条件の特徴

印刷産業の一つの特徴は季節により仕事量の繁閑が大きいことであり、繁忙期になると残業時間が多くなる。

企業によっては、1日の中で作業が午後から夕方に集中するため、他の部門よりも始業時間を遅くしたり、変形労働制を導入したり、二交代制を取ったりしている場合もある。

参考情報

関連資格 DTP検定 DTPエキスパート認証試験 製版技能士